

高等学校 令和8年度（全学年用）

数学 科目 数学Ⅱ

教科：数学

科目：数学Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

教科担当者：（1組：森本・伊藤） （2組：大島・入江） （3組：森本・入江） （4組：大島・入江） （5組：蔡・入江）

使用教科書：（ 高校数学Ⅱ（実教出版） ）

教科 数学

の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅱにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を身につけることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	式の計算 ・ 式の見方を豊かにするとともに、3次の乗法公式および因数分解の公式について理解を深める。また、二項定理を用いた展開や、分数式の四則演算ができるようになる。	・ 生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・ 課題配信や教材提示等をするために、一人1台端末を活用する。	【知識・技能】 ・ 3次の乗法公式や因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・ 3次の乗法公式や因数分解の公式について、既に学習した2次式の場合と関連付けて多面的に考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 3次の乗法公式を数の計算に活用できることに関心をもち、実際の計算に活用しようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	9
	定期考査		○	○	○	1	
	複素数と2次方程式 ・ 数を複素数まで拡張することの意義を理解し、複素数の四則演算ができるようになる。また、2次方程式の解について理解を深める。	・ 生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・ 課題配信や教材提示等をするために、一人1台端末を活用する。	【知識・技能】 ・ 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・ 複素数の四則計算の方法を、既に学習した数や式の計算と関連付けて、同様な点や異なる点を考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 数を複素数まで拡張していく過程に関心をもち、調べようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	14
定期考査		○	○	○	1		
2 学 期	高次方程式 ・ 整式の除法、剰余の定理、因数定理について理解し、それらを用いて高次方程式を解けるようになる。	・ 生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・ 課題配信や教材提示等をするために、一人1台端末を活用する。	【知識・技能】 ・ 整式の除法について理解し、計算ができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・ 整式の除法について、既に学習した数の計算と関連付けて多面的に考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	14
	定期考査		○	○	○	1	
	点と座標 直線の方程式 ・ 直線上の点や平面上の点について、その座標を理解し、内分点や外分点を考察する。	・ 生徒の理解度を把握しながら、教科書に沿って指導する。 ・ 課題配信や教材提示等をするために、一人1台端末を活用する。	【知識・技能】 ・ 直線上の2点間の距離や、線分を内分する点・外分する点の座標を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・ 座標平面上の異なる2点から等しい距離にある点の座標を、2点間の距離を求めることを利用して考察できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 直線上の点や座標平面上の点について、いろいろな距離や座標を求めることに関心をもち、調べようとしている。 （授業態度・課題提出）	○	○	○	14

	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	円の方程式 不等式の表す領域 ・円の方程式について理解し、円 と直線の位置関係および共有点の 個数について学ぶ。	・生徒の理解度を把握しながら、 教科書に沿って指導する。 ・課題配信や教材提示等をするた めに、一人1台端末を活用する。	【知識・技能】 ・座標平面上の円を方程式で表すことが できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・ $x^2+y^2+1x+my+n=0$ の方程式を変形する と、円の中心の座標や半径が求められるこ とを考察できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ $x^2+y^2+1x+my+n=0$ の式の変形には、数学 Iで学んだ平方完成の知識が活用できるこ とがわかり、関心をもっている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
							合計 70